



(ひかり かがやく子)

# 「螢」の子

堀之内小学校だより  
R 7年度1月号  
令和8年1月6日

【重点目標】「自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる」

## かざはな ～「風花が舞う」～

私が好きな言葉です。

晴天時に、風に乗って雪がちらちらと舞うことを言います。

冬の季語にもなっているこの言葉。昔の人は、あの小雪が降る様子を見て、春の温かな風に舞う桜の花びらを連想して名付けたのだと思います。感性の豊かさに感心します。

ちなみに英語では、「Light Snow(ライトスノー：軽い雪)」と言うのだそうです。一つの言葉を比較してみても、それぞれの国の文化の違い、感性の違いも感じられ、おもしろいです。

最近、私たちの周りのいろいろなことが「理屈っぽく」なっているなあと感じています。合わせて、私たちが「感性」を磨く経験や場面が、どんどん少なくなっているなとも思います。霜柱を踏む感触。つららのあの冷たさとおいしさ(?)。夕方、トンボを捕まえようと足音をおさえ、そっと忍び寄るあの空気感。……「機械」に囮まれた生活の中で、大事な「感性」がますます停滞(退化?)しているように感じてしまいます。夕陽を見ても何色と表現して良いのかわからない人々。「色見本」を見ると、400を超える全ての色にしっかりと名前がついていて、昔の日本人たちはその微妙な色の違いを言葉で表現していました。しかし、今では、色を言葉で表すこともできず、ただ「きれいだね」の一言で済ませてしまいます。

いろいろな知識を獲得することも大事ですが、子供の時だからこそ感じられるものがたくさんあります。そしてその「感じたこと」が、思いやりやその子の生き方の根源になっていきます。「もっともっと『感性を育む』ことを大事にしていかなければならない。」 最近、そう強く感じます。

外で元気に遊ぶこと。草むらや木々の間を駆け回ること。動植物を育てること。周りの景色をよく眺めること。人と一緒に活動すること。友達と一緒に創り上げること。何度も何度も挑戦すること。解決を求めてあれこれ試すこと。いろいろなことを体験しながら、そこで聞こえてくる音や香りや感触を言葉で表すこと。……。子供たちの生活のいろいろな場面で、「感性を育む」ためにやれること、やりたいことがたくさんあります。

2026年が始まりました。今年も様々な教育活動を通して、子供たちの感性を育んでいきたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

(校長 後藤克巳)

